



笑顔とやる気いっぱいの中 生徒自らが常に鍛え続ける中

# 七中だより



第 4 号 中野区立第七中学校《学校だより》

令和2年6月1日  
TEL 03-3389-4171

## 「仲間と共に」

校長 池田 俊一

いよいよ本日から授業が始まりました。生徒の顔を見ながら授業を進められる事は教員にとって大きな喜びです。休業期間中の一人ひとりの頑張りや変容を見られることも期待しています。

さて、そんな本日はどんな日なのだろうと思い「学校便りの2号」に書いた「毎日がポジティブになる、元気が出る言葉366日」のページを開いてみました。そこには1968年6月1日に亡くなった『ヘレン・ケラー』の言葉が2つ次のように出ていました。

「元気を出しなさい。今日の失敗ではなく、明日訪れるかもしれない成功について考えるのです。」「大きな目標があるのに、小さなことにこだわるのは愚かです。」

ヘレン・ケラー(7歳)は、家庭教師のアン・サリヴァン(20歳)との出会いのなかで三重苦(1歳の時の高熱で、見えない、聞こえない、話せない状態になってしまう)だった彼女の人生を変えていきます。成長し学問を修めた彼女は、人道的な抗議運動に参加するようになります。のちの彼女は世界各地を歴訪し教育・福祉の発展に貢献しました。(日本にもいらしています)私は、以前上映された映画「奇跡の人」の一場で、流れる水に手をかざしながら指文字で「water」を理解し歓喜する場面を思い出しました。ヘレン・ケラーの言葉は、私たちに、勇気を与えてくれるなどと思い紹介しました。「この3ヶ月間の事は、いくらでも取り返せますよ。」と彼女は笑って言ってくれるでしょう。

また、教室に一同がそろうのも後2週間です。今まで

は外出できない不自由な状態からのストレスでしたが、改めて登校するという事は生活習慣を切り替えていく新たなストレスの中に身を置くという事になります。これを上手にのりきって楽しい学校生活を早く取り戻して行きましょう。そのために私が思う一番大事なことは、友達との出会いとふれあいです。この時期は「久しぶりの友」「初めての友」の両方がいる訳ですが、全部ひくくめて友なのです。新鮮な出会いを楽しむ気持ちで友を受け入れ、新しい良さを発見してください。初めて会うなら当たり前のことですが、久しぶりに会う友も大きく成長をしていることでしょう。皆さんなら友達発見は、きっと容易い事ではないでしょうか。

上の文章と関連していますが、先日のニュースに「女子プロレスラーが亡くなった」というものがありました。その原因が SNS による誹謗中傷にあるのではないとも言われます。SNS の使い方は、今までも大きな問題になり、生徒の皆さんも自分のこととして考え行動していると思いますが、あたらしく学校がスタートするこの時期改めて意識して欲しいと思いました。このニュースの関連を見ていくと、お亡くなりになった方は努力家で真面目な選手であり将来の活躍を期待されていたと言うことです。そんな彼女の将来を奪ってしまった、SNS での言葉の鋭さを私たちは決して使ってはいけません。

